

学校における

がん教育の手引き



平成31年 2月
新潟県教育委員会



はじめに

現在、がんは日本人の死因の第1位を占める病気であり、およそ3人に1人ががんで亡くなっています。また、生涯のうち2人に1人が、何らかのがんにかかると推計されており、重要な健康課題の一つであります。

また、がんは、命に関わる病気ですが、医学の急速な進歩により、早期に発見し、適切な治療をすれば、治らない病気ではなくなってきました。

しかしながら、がん検診の受診率が上がらないことや、がんは未だ「不治の病」などといった、がんに関する誤った認識が根強く、必要以上に不安や恐怖を感じたり、がん患者やその家族への偏見につながったりしています。このようなことから、学校教育活動全体で健康教育の一環として「がん教育」を推進することは、児童生徒が生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育成する上で、大変有意義なことでもあります。

新潟県教育委員会では、平成28年度から文部科学省の委託事業を受け、モデル校による授業実践や教職員等への研修会、普及啓発のためのリーフレットを各学校へ配付するなど、がん教育の推進に向けた取組を進めており、その一環として本手引きを作成しました。

各学校におかれましては、本手引きを活用し、全教職員の共通理解のもとに、健康教育の全体計画に位置付け、関連教科との連携を図り、学校教育全体で推進することや、学校保健委員会を活用し、家庭や地域の理解を得ながら、学校全体で組織的・計画的に進められるよう期待します。日本の未来を担う子供たちに、がんの正しい知識や、生きること、命の大切さについて、理解して欲しいと願っております。

最後に、本手引きの作成に当たり、御協力と御指導を賜りました皆様及び資料提供や御助言をいただいた方々に感謝申し上げます。

平成31年2月

新潟県教育庁保健体育課長

今 西 博 一

● ● 目 次 ● ●

はじめに

I 学校におけるがん教育の進め方

- 1 がん教育の必要性 1
- 2 学校におけるがん教育の基本的な考え方 1
- 3 がん教育の授業の在り方 2
- 4 効果的に進めるために 4

II 配慮事項

..... 5

III 発達段階に応じた「がん教育」の指導例

- 1 指導計画例 7
- 2 がん教育の展開例 8
- 3 指導例
 - (1) 小学校 9
 - (2) 中学校 13
 - (3) 高等学校 19

IV 外部講師を活用したがん教育の進め方

..... 25

V 参考資料・教材

..... 29

I 学校におけるがん教育の進め方

1 がん教育の必要性

学校における健康教育は、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育成することを目指しています。

特に、日本人の死亡原因として最も多いがんについては、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育が不十分であることが指摘されており、学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心を持ち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることが求められています。

学校におけるがん教育については、がんをほかの疾病等と区別して特別に扱うことが目的ではなく、がんを扱うことを通じて、ほかの様々な疾病の予防や望ましい生活習慣の確立を含めた健康教育の充実を図るものでなければなりません。

がん対策に関する背景

【国の対策】

- ・がん対策基本法
- ・がん対策推進基本計画

【新潟県の対策】

- ・新潟県がん対策推進条例
- ・新潟県がん対策推進計画

2 学校におけるがん教育の基本的な考え方

がん教育の定義

がん教育は、健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、がん患者や家族などのがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通じて、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育である。

(1) 学校におけるがん教育の目標

①がんについて正しく理解することができるようにする

がんが身近な病気であることや、がんの予防、早期発見・がん検診等について関心を持ち、正しい知識を身に付け、適切に対処できる実践力を育成する。また、がんを通じて様々な病気についても理解を深め、健康の保持増進に資する。

②健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする

がんについて学ぶことや、がんと向き合う人々と触れ合うことを通じて、自他の健康と命の大切さに気付き、自己の在り方や生き方を考え、共に生きる社会づくりを目指す態度を育成する。

3 がん教育の授業の在り方

(1) 教育課程における位置付け

学校における健康教育は、児童生徒が生涯を通じて健康な生活を送るための基礎を培うものであり、体育科・保健体育科を中心として、特別活動や特別の教科道徳（以下、道徳と表記）、総合的な学習（探求）の時間、その他関連する教科等を含め、学校の教育活動全体を通じて行われるものであり、がん教育も教科等横断的な学習を充実する必要があります。

また、学校におけるがん教育を進めるに当たっては、以下のような点に配慮する必要があります。

【がん教育を進めるに当たっての留意点】

- 学校教育活動全体で健康教育の一環として行うこと。
- 発達段階を踏まえた指導を行うこと。
- 外部講師の参加・協力など関係機関等と連携して行うこと。
- 家庭や地域社会との連携を推進し、保護者や地域の理解を得ること。

(2) 学習指導要領における位置付け

【学校におけるがん教育の目標】

①がんについて正しく理解することができるようにする

主に小学校体育科（保健領域）、中学校保健体育科（保健分野）、高等学校保健体育科（科目保健）で扱われます。

また、学校の実態に応じて充実させたい場合は、特別活動で取り扱うことも考えられます。

②健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする

授業のねらいに応じて、特別活動や道徳、総合的な学習の時間において取り扱うことが考えられます。

(3) がん教育の内容について

児童生徒に指導する上では、発達段階を踏まえ、専門用語に偏らずに、誰でも分かりやすい言葉を用いるようにします。

【具体的な内容】

- | | | | |
|---|--------------|---|------------|
| ア | がんとは（がんの要因等） | イ | がんの種類とその経過 |
| ウ | 我が国のがんの状況 | エ | がんの予防 |
| オ | がんの早期発見・がん検診 | カ | がんの治療法 |
| キ | がん治療における緩和ケア | ク | がん患者の生活の質 |
| ケ | がん患者への理解と共生 | | |

「学校におけるがん教育の在り方について報告」平成27年3月

「がん教育」の在り方に関する検討会

図 がん教育のイメージ



4 効果的に進めるために

(1) 学校保健計画等に位置付け、計画的に実施

- ・年度当初の職員会議等で、がん教育について周知するなど、情報を共有する。
- ・全ての教職員の共通理解のもと行う。

(2) 家庭・地域との連携



【連携（例）】

- ・学校だより、保健だより等の活用及び保護者会等での情報提供・啓発活動
- ・授業参観の実施や行事等の実施
- ・学校保健委員会等での情報提供・協議
- ・PTA活動における講演会、研修会等の実施
- ・保健所、地域医療機関等への相談等
- ・中学校区における情報共有と行動連携の推進

(3) 集団指導と個別指導との連携

学校においてがん教育を実施するに当たっては、児童生徒の家族にがん経験者がいる場合や、家族をがんで亡くした児童生徒がいる場合、また、児童生徒本人が小児がんの当事者である場合を踏まえ、指導する必要があります。これらの情報を学校が全て把握しているとは限らないため、該当する児童生徒がいる可能性を常に念頭に置いて、指導計画を立て、指導することが重要です。また、保護者会等で事前に授業内容を周知することや、配慮を要する児童生徒には保護者も含めて個別に対応できるよう、教職員間、家庭、関係機関等との連携を図り、進めることが大切です。

【集団指導】

- * 学習指導要領に基づく指導内容とする。
- * 関連教科・領域の指導内容を把握する。
- * 指導の際には、児童生徒の表情や態度、言動等を観察し、観察や感想等から個別の対応が必要な児童生徒を把握した場合は、個別指導又は相談の必要性を検討する。

【個別指導】

- * 個別の指導計画に基づく指導を実施する。
- * 児童生徒の心のケアについて、健康相談との関連を図る。
- * 健康相談では、児童生徒の話をよく聞き、気持ちの安定を図りながら、自分の健康を守るために、より適切な意思決定や行動選択ができるように支援する。

Ⅱ 配慮事項

がん教育を実施するに当たり、児童生徒の家庭状況や心理面の配慮が必要です。

生涯のうち2人に1人ががんになり患う時代です。学校では、事前に保護者から情報を得るなどして、以下のような事例に該当する児童生徒が、教室や学校にはいる（可能性がある）という前提で、配慮する必要があります。なお、他の疾病同様、これまで学校等が蓄積してきた事例を生かすことが望まれます。

【配慮が必要な事例】

- 小児がんの当事者、小児がんにかかったことのある児童生徒がいる。
- 家族や身近な人ががん患者がいる、家族や身近な人をがんで亡くした児童生徒がいる。
- 生活習慣が主な原因とならないがんもあり、特に、これらのがん患者が家族や身近にいる。
- がんに限らず、重病・難病等にかかったことのある児童生徒や、家族や身近な人に、該当者がいたり、亡くしたりした児童生徒がいる。
- 子宮頸がんワクチンを接種したことにより、心身に不調が生じた生徒がいる。

《配慮の例》

- ・事前調査を行うなど、実態を把握し、授業内容について事前に周知する。
- ・「がん教育を行うこと」や「心配があれば、いつでも相談できること」をあらかじめ保護者にたよりや通知文などで周知する。… [資料参照](#)
- ・授業の冒頭で「悲しくなったり、聞いているのが辛くなったりした場合は、先生に伝えてください」等の言葉かけをする。
- ・身近な人を亡くした児童生徒がいる場合、授業中や授業前後の様子を観察する。
- ・児童生徒本人や家庭の状況等を鑑み、がん教育の内容や方法、実施時期を工夫する。（保護者の意向を受け止め、取組を行うなど）
- ・本人に限定されるような内容に特化せず、事例を一般化するなどの工夫をする。
- ・養護教諭等とともに指導をするなど複数体制にする。
- ・授業を受けたくない場合は、別室で過ごさせるなど、必要な配慮ができる体制や環境を整備する。
- ・授業前後だけでなく、児童生徒の日常の学校生活の様子等を観察する。
- ・児童生徒の様子から、意図的な声かけや必要に応じて個人面談を実施する。

資料：保護者宛のがん教育実施の通知文

がん教育実施前の保護者宛の通知文においては、がん教育を行う必要性、いつ・どこで・誰が・どのような内容と方法で行うのか、質問がある場合の問い合わせ先などを簡潔にまとめます。

○学級だよりの一部に掲載する場合（例）

がん教育を行います！

日本において、がんは死因の第1位でありながら、がんのそのものの理解や、がん患者に対する正しい認識を高める教育が不十分であることが指摘されています。文部科学省では「がん教育総合支援事業」を実施し、学校における健康教育としてのがん教育の推進を進めています。

そこで、本学級においても○月○日に、学級活動の時間に「がんについて考えようー健康によりよく生きるためにー」の授業をおこないます。この授業は、がんを身近な問題としてとらえ、がんの予防、早期発見の必要性などについて、興味・関心をもつこと、また、がんに関する正しい知識を身に付けることを目的にしています。御理解と御協力のほどをよろしくお願いいたします。

なお、この授業を行うにあたり、御質問や御心配なことがございましたら、担任または保健室まで御連絡ください。（連絡先電話：○○○-○○○○）

○○年 ○月 ○日

保護者の皆様

○○中学校
校長 ○○ ○○

がん教育の授業の実施について

○○の候、保護者の皆様には、ますます御清栄のことと存じます。日頃より、当校の教育活動に御協力、御支援をいただき感謝申し上げます。

文部科学省では、がん教育について、がんは日本人の死亡原因として最も多く、生涯のうち国民の二人に一人はがんにかかるかと推測され、国の重要な健康課題であり、国民が身に付けておくべきものとしています。また、がん対策基本法の下、政府が策定したがん対策基本計画においても、子供に対し健康と命の大切さや自己管理、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識をもつよう教育することを旨とし、学校教育の中でがん教育を実施するとしています。

そこで、当校では以下のように、がん教育の授業を計画しています。一人一人が、限りある命を精一杯輝かせて、他者とかかわりあいながら生きている喜びを感得し、主体的に自他の健康で安全な生活を送ることができる生徒の育成を目指しています。

つきましては、心配なことや配慮してほしいことがありましたら、いつでも、担任又は、養護教諭（電話 ○○○-○○○○）まで御連絡ください。よろしくお願いいたします。

記

- ねらい がんに興味・関心を持つとともに、がんの予防や早期発見について正しい知識を身に付ける。
- 日時 ○月○日 ～ ○月○日
- 授業者 各担任
- 内容 ・がんを正しく知ろう。
・がんと向き合って生きていくために、自分ができることを考えよう。

Ⅲ 発達段階に応じた「がん教育」の指導例

1 指導計画例

	小学校	中学校	高等学校
体育科 ・保健体育科 *生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力の育成	【第3学年】 (1)健康な生活 (イ)1日の生活の仕方 【第6学年】 (3)病気の予防 (ウ)生活行動が主な原因となって起こる病気の予防 (エ)喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 (オ)地域の保健に関わる様々な活動	(1)健康な生活と疾病の予防 【第1学年】 (イ)生活習慣と健康 ④調和のとれた生活 【第2学年】 (ウ)生活習慣病などの予防 ①がんの予防 (エ)喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 ⑦喫煙と健康 【第3学年】 (カ)健康を守る社会の取組	(1)現代社会と健康 (ア)健康の考え方 (ウ)生活習慣病などの予防と回復 (エ)喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 (4)健康を支える環境づくり (ウ)保健・医療制度及び地域の保健・医療機関 (エ)様々な保健活動や社会的対策 (オ)健康に関する環境づくりと社会参加
特別活動 *人間としての生き方についての考えを深める	(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成	(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成 エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成	(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 オ 生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立
道徳 *よりよく生きるための基盤づくり *人間としての生き方についての考えを深める	A 主として自分自身に関すること 1 善悪の判断、自律、自由と責任 D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること 19 生命の尊さ	A 主として自分自身に関すること 2 節度、節制 B 主として人との関わりに関すること 6 思いやり、感謝 9 相互理解、寛容 C 主として集団や社会との関わりに関すること 11 公正、公平、社会正義 D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること 19 生命の尊さ	
総合的な学習の時間（高等学校は「総合的な探求の時間」） *保健に関する横断的・総合的な学習	現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題 (例：健康 福祉) 児童の興味・関心に基づく課題 (例 生命)	現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題 (例 健康 福祉) 生徒の興味・関心に基づく課題 (例 生命)	現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題 (例 健康 福祉)

2 がん教育の展開例

学校種	小学校		中学校		高等学校	
	体育科 保健領域	道徳・ 特別活動	保健体育科 保健分野	道徳・ 特別活動	保健体育科 科目保健	特別活動
ア がんとは何か	◎	◎	◎		◎	
イ 我が国のがんの現状	○	○	◎		◎	
ウ がんの予防	○	○	◎		◎	
エ がんの早期発見・検診	○	△	◎		◎	
オ がんの治療法		○	△	(○)	◎	(○)
カ がん治療における緩和ケア		○		(○) 可能であれば扱う	◎	(○) 可能であれば扱う
キ がん患者の生活の質		○		○	○	(○)
ク がん患者との理解と共生		○		○	○	(○)

※表中の記号は次のことを表す。 ◎:重点を置く ○:扱う △:触れる
小児がんについてはすべての校種で配慮する。

参考 「学校におけるがん教育の考え方・進め方」 大修館書店

3 指導例

(1) 小学校6年

「がんについて学ぼう」

<指導の流れ> 3時間

体育科 保健領域 (1時間)	(3)病気の予防 ア 知識 (エ)喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	・喫煙による一酸化炭素やタール等の心臓病・がん等の健康への影響を知る。 ・それらの予防にはたばこを吸わないことが重要であることを知る。
体育科 保健領域 (1時間)	(3)病気の予防 *発展学習	・がんとはどのような病気か大まかに知る。 ・望ましい生活習慣が大切なことを確認し、今の生活習慣が将来の健康につながっていることに気付く。
道徳 (1時間)	D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること 19 生命の尊さ	・「友だち～ほくとゆう君～」を読み、友達が白血病と知ったときのほくの心情を考え、自分ができることを考える。

《体育科 保健領域 1h 1/2》

1 本時のねらい

○喫煙による健康への影響やがんとの関係について知り、心臓病やがんになるリスクを減らすための方法の一つとして、たばこを吸わない等があることを発表したり記述したりできる。

2 指導の流れ

【導入】

・たばこの健康への影響について知っていることを発表する。

【展開】

喫煙は、健康を損なう原因となることを知る。

- ・受動喫煙は周囲の人々の健康に影響を与えることについて知る
- ・長期の喫煙は、心臓病やがん等の原因になることを知る。

【まとめ】

・健康な生活をするために、たばことどのようにかかわっていくかをワークシートに記述する。

3 評価

○喫煙について学習した知識をもとに、自分はこれからどのようなことに気を付けていきたいか記述している。

【資料】がん教育プログラム小学校版 映像教材①がん博士の『がんについての基礎知識』より抜粋



生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、望ましい生活習慣を身に付ける必要があることを理解させておくことが重要となる。

1 本時のねらい

○がんについて正しい知識を身に付け、望ましい生活習慣を続けることが、がんの予防につながるということが分かり、今の生活習慣が将来の健康につながっていることに気付くことができる。

2 指導の流れ

【導入】

- ・がんについて知っていることやイメージしていることを発表する。
＜ブレインストーミング＞

【展開】

がんについて知ろう。（参考：文部科学省「がん教育プログラム小学校版」映像教材①）

- ・日本人の死因の第一位
- ・一生の間で2人に1人ががんにかかる可能性があり3人に1人ががんで亡くなっている。
- ・がんの原因は1つではない（生活習慣だけでなく、細菌ウイルス感染、遺伝要素など様々あることを伝える。）
- ・早期発見、早期治療で治る可能性が高くなる。
- ・望ましい生活習慣を続けることが、予防につながる。

他の生活習慣病を防ぐためにも、望ましい生活習慣が大切だということを確認する。

- ・適度な運動
- ・バランス良い食事（塩分、脂肪分、糖分の取りすぎに注意する、野菜を多く食べる）
- ・十分な睡眠
- ・たばこを吸わない、お酒の飲みすぎ注意

自分の生活習慣を振り返り、改善点を考える。

- ・今の生活習慣が将来の健康につながっていることに気付かせる。

【まとめ】

- ・がんについて分かったことと自分の生活で心配なところを踏まえて、授業の振り返りをワークシートに記述する。

3 評価

○がんについて学習した知識をもとに自分の生活を振り返り、将来の健康につなげるために、これからどのようなことに気を付けていきたいか記述している。

<ワークシート（例）>

1 「がん」は、どのような病気なの。

2 「がん」について正しく学ぼう。

原因は？	治すことができるの？
「がん」にならないためにどうすればいいの？	どうすれば早く見つけられるの？

3 これからの自分の生活について考えよう。

《道徳 1h》

1 本時のねらい

- がんと向き合う友達に対する共感的理解を深めることを通して、自他の命の大切さに気づき、共に生きる態度を育てる。

2 指導の流れ

【導入】

- ・前時の学習を振り返り、がんとはどんな病気であるか、望ましい生活習慣を続けることが予防につながることを確認する。

【展開】

「友だち～ぼくとゆう君」を読む。(引用：日本対がん協会「がん教育読本」)

- ・白血病についての説明を聞き、生活習慣が主な原因とならないがんもあり、小児がんは原因不明なことが多いことを知る。

「ぼく」はどんな気持ちかを考える。

- ・「ぼく」を自分に置き換えて考える。
- ・友達が白血病と知ったときの「ぼく」の心情について考える。

「ゆう君」のためにできること話し合う。

- ・グループで、「ゆう君」を支えるために何ができるかを考える。
- ・「ゆう君」が、前向きに病気を治療しようとしていることを知る。
- ・いつも通りでいることも「ゆう君」にとって大切であることに気付く。

【まとめ】

- ・本時を振り返って、感想を記述する。

3 評価

- がんと向き合う友達に対する共感的理解を深めることを通して、自他の命の大切さに気づき、共に生きる態度を育てる。

<ワークシート (例) >

「大切な友だちのために自分ができようことを考えよう！」

年 組 名前

- 1 「ゆう君」ががんと知った時、「ぼく」はどんな気持ちだったでしょうか。

- 2 入院するゆう君のために、できることをグループで話し合いました。

- 3 今日の授業の感想を書きましょう。





子どものがん(小児がん)

15歳未満の子どものできるがん(悪性腫瘍)が「小児がん」と呼ばれます。全国で年に2000人前後が発症しているとみられます⁽¹⁾。小児1万人あたりだいたい1人になる計算です⁽²⁾。最も多いのが血液のがんである白血病で、小児がん全体の約4割を占めるとされています。ほかにも脳腫瘍や骨肉腫、神経芽腫、横紋筋腫など様々ながんがあります。

(1) 国立がん研究センターがん対策情報センターのホームページ「がん情報」より
(2) 日本対がん協会のホームページ

今は、治るがんに

かつては子どもが白血病になると、全員が亡くなってしまふ、まさに「不治の病」でした。それが今は「治る」ケースが8割以上、いろいろな薬が開発され、それらの組み合わせが工夫されて「治る」病気になってきたのです。子供の命を救いたい一医師や研究者らの願いが医学の発展を押し進めてきたのです。ただ治療が難しいがんもあり、さらに研究が続けられています。

子どものがんと大人のがん

小児がんの多くは原因が不明です。ただ、大人に多いがん、例えば胃がんとか、大腸がん、乳がんは子どもにはほとんどみられません。大人の場合は、たばことか、食事、肥満など、生活習慣と密接に関連していますが、小児がんは異なる仕組みで発症すると考えられます。

院内学級

病室中の子どもたちにとって、大きな課題が「教育」です。クラスの友達と一緒に学びたくても、難しいことも少なくありません。そんな子どもたちのために、特別支援学級を設けたり、教師を派遣したりして教育を行うことが、学校教育法に盛り込まれています。幼いころに小児がんを患いながら、高校、大学に進学する子どもも増えていますが、将来への不安を除くにも、学ぶ機会が公平でなければいけません。

◎ネットでの小児がんに関する情報は……

【友だち～ぼくとゆう君～】

ぼく：た・だ・い・ま…
 母：「おかえり。どうしたの？元気ないわね。だれかとけんかでもしたの？」
 ぼく：「……」
 母：「だまってちゃわからないでしょう？」
 ぼく：「ゆう君、がんなんだって。それで入院しなきゃいけないって…だつて知らなかつたんだもん」
 ぼくが小学校3年生のときにゆう君は近所に引っ越してきた。
 母：「ひとりっ子なんだって。ちゃんとあいさつできてたわ。すこしはあなたも見習いなさいよ。」
 そう話すおかあさんが、ちょっと腹立たしかった。ふん、なんだ、あんな青白いヤツの味方して。
 母：「ゆう君はね、体が弱いらしいの。だから体育の授業も見学することが多いんだって。仲良くしてね。明日からいっしょに学校に行っておきなさい。」
 それから、ぼくはゆう君といっしょに学校に行くようになった。
 ぼく：「もう、早く来いよ！しょうがないなあ。」
 ゆう：「待ってよ、そんなに急いで歩かないでよ。ハアハア。」
 夏休みが終わってすぐ、職員室に入っていくゆう君のママを見かけた。次の日。
 担任：「みんな聞いてください。こんど、ゆう君が入院することになりました。白血病という、血液のがんで…」
 下校の時。
 ゆう：「なにしてんだよ。そんなにノロノロ歩いていたら先に帰っちゃうよ。」
 ぼく：「……」
 ぼく：「何でだまってたんだよ！入院するんだろっ！元気になって帰って来なかつたらゆるさないからな！」
 ゆう：「えっ！なに？」
 その夜。
 父：「お父さんとゆう君のお父さんとは学生時代からの友だちなんで、いろいろ話をしているね、今度息子が入院することになったって聞いたよ。」
 ぼく：「知ってたんだ。それで、ゆう君死んじゃうの？」
 父：「うちの近くの病院が白血病の専門だから、それでこっちに引っ越してきたんだ。」
 「お医者さんからは、抗がん剤とかの治療のこともあってしばらく入院することになるけど、とくに心配はいらないって言われているそうだよ。」
 ぼく：「勉強は？」
 父：「病院の中にクラスがあるんで、しばらくはそこで勉強することになるそうだ。たまにみんなで学校の様子を教えに行っておいたら？」
 ぼく：「うん」
 数日後。
 ぼく：「ごめん知らなかつたんだ。誰も教えてくれなかつたから。だから、みんなといっしょになって、だから…」
 ゆう：「えっ、何のこと？いいよ、そんなこと。前の学校ではもっと…だれも声をかけてくれなくて、友達もできなくて、遊んでもくれなくて、すごく寂しかったんだ。そのころにくらべれば、ぜんぜん。」
 ぼく：「なあ、早く学校に戻って来いよ。」

2 中学校2年

「病気の予防 ～今わたしにできること そして未来へ～」

＜指導の流れ＞ 4時間

保健体育 (2時間)	(1)健康な生活と疾病の予防 (ウ)生活習慣病などの予防	・がんの疾病概念を知る。 ・がんの予防やがん検診による早期発見が大切であることを知る。
特別活動 (1時間)	(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長 及び健康安全 ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい 人間関係の形成	・自分や身近な人ががんになった場合を想定した意見交換を通して、保健体育での学習（がんの疾病概念や予防、早期発見の大切さ等）をもとに自分にできることを考える。
道徳 (1時間)	B 主として人との関わりに関すること 6 思いやり、感謝 D 主として生命や自然、崇高なものとの 関わりに関すること 19 生命の尊さ	・外部講師の話を書くことを通して、がん患者との関わりや、自他の健康と命の大切さについて考える。

※指導例は4時間構成ですが、指導の際は、各学校の実態に合わせて実施してください。

＜保健体育 1h 1/2＞

1 本時のねらい

- がんの疾病概念や予防等について、正しい基礎知識を身に付けることができるようにする。
- がんの予防方法について、自らの生活と比較しながら、課題の解決方法を見つけたり、選んだりして、それらを説明することができる。

2 指導の流れ

【導入】

- ・生活習慣病を予防するには望ましい生活習慣を身に付けることが有効であることを確認する。
- ・がんに関する知識の実態を知る。（資料：事前アンケート結果）

【展開】

がんの疾病概念を知る。

（参考：文部科学省「がん教育推進のための教材」、「がん教育プログラムスライド教材」モジュール1・2・3）

- ・がんについて知っていることを出し合う。
- ・日本人の2人に1人が、生涯でがんにかかる可能性があることを知る。
- ・がんの仕組み、経過、種類などを知る。

がんは、予防や早期発見が大切であることを知る。

（参考：文部科学省「がん教育推進のための教材」、「がん教育プログラムスライド教」モジュール1・4・5）

- ・がんの要因を知る。
- ・がんを予防するためにできることを考える。（今の自分にできること）
- ・早期発見の大切さを知る。（大人になってからできること）

- ・小児がんなど、生活習慣とは関連のないものもあるため、誤解がないようにする。
- ・一部のがんでは、ウイルス感染が背景にある場合があるが、がんという病気自体が人から人に感染することはないため、感染を扱う際は留意する。

【まとめ】

- ・本時を振り返り、今日の学習を通してわかったことを記述する。

3 評価

- がんの現状や要因について、ワークシートに記入したり、発表したりしている。
- がんの予防について学習した知識をもとに考えをまとめ、ワークシートに記述している。

保健体育 参考使用教材

【資料】 がん教育プログラム中学校・高等学校版 スライド教材 より抜粋

がんのしくみ

わたしたちの体の細胞は毎日分裂し新しくなっている 約37兆個

細胞分裂するとき **変異し悪性化したものが“がん”**

※変異しても免疫系に気づかずに増殖しているときは、検出されたり排除されたりする

細胞が分裂するすべての臓器にがんができる可能性がある

細胞が分裂するときの変異により **がん細胞ができるから**

原因のわからないがんもある

がんには原因のわかっているものとわからないものがある

小児がんも生活習慣や細菌・ウイルスとは関係なく発症するものが多い

小児がん…白血病、脳腫瘍など

今、わたしたちにできること

喫煙・受動喫煙・飲酒・食事（野菜不足、脂肪のとりすぎなど）・運動不足など

細菌・ウイルス 生活習慣 遺伝的原因

今、自分にできることを心がけることが大切

望ましい生活習慣以外にできること

細菌・ウイルス 生活習慣 遺伝的原因

がん検診を受ける

早期発見で治すことができる

<ワークシート(例)>

「がんの予防 ～わたしたちにできること～」

3年 A組 氏名

1. がんの現状としくみ

日本人は 人に1人が生涯のうちにがんにかかる可能性があり、死因の第 位ががん。

 という' (Call it malignant)."/>

2. がんの原因

男性の場合		女性の場合	
(1) 喫煙	28.7%	(1) 喫煙	5.0%
(2) 飲酒	22.0%	(2) 喫煙	2.5%
(3) 肥満	9.0%	(3) 喫煙	1.5%
(4) 運動不足	8.8%	(4) 喫煙	1.2%
(5) 遺伝	0.3%	(5) 喫煙	0.3%
(6) 細菌・ウイルス	0.3%	(6) 喫煙	0.4%
(7) その他	0.3%	(7) 喫煙	0.4%

(1) (2) (3) (4)

3. がんを予防するために、わたしたちにできること

<親長が機会にできること・したほうが良いと思う理由>

<児童が機会に取り組んでほしいこと・その理由>

4. 今日の授業を振り返って(わかったこと、思ったことなど)

《保健体育 1h 2 / 2》

1 本時のねらい

○がんの疾病概念やがん検診の受診率等をもとにがん検診の意義を考え、早期発見の大切さを説明することができる。

2 指導の流れ

【導入】

- ・前時の学習を振り返り、がんの疾病概念等を確認する。
- ・本時の学習内容を知る。

【展開】

がん検診の意義を考える。

(参考:文部科学省「がん教育推進のための教材」、「がん教育プログラムスライド教材」モジュール3・4・5)

- ・事例をもとに生活の中でのがんの予防法を確認する。
- ・がん検診の受診率や身近な人の受診状況等からがん検診を受ける理由・受けない理由を考える。

がんは早期発見が大切であることを知る。

(参考:文部科学省「がん教育推進のための教材」、「がん教育プログラムスライド教材」モジュール3・4・5・6)

- ・がん検診を受ける必要があるのはどんなときか考える。
- ・がんの進行と自覚症状について知る。
- ・がんは早期発見により多くの人が治っていることや、がんの治療の三つの柱を知る。
- ・がん検診による早期発見の重要性を知る。

・がんは症状がないまま進行する病気であり、症状がなくても定期的に検診を受ける必要があることを理解させる。

【まとめ】

- ・本時を振り返り、学習を通してわかったことを記述する。

3 評価

○がん検診を受診する理由・受診しない理由について考え、ワークシートに記入したり、発表したりしている。

○がんは早期発見が重要であることを、学習した知識をもとに考えをまとめ、ワークシートに記述している。



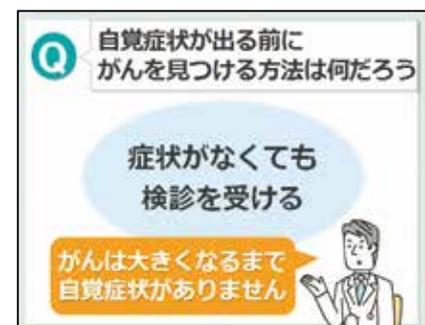
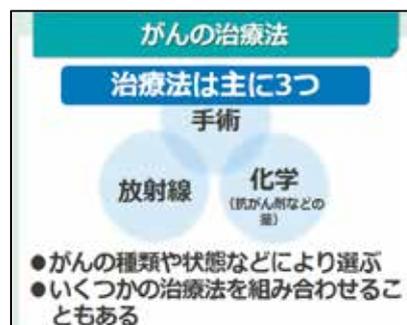
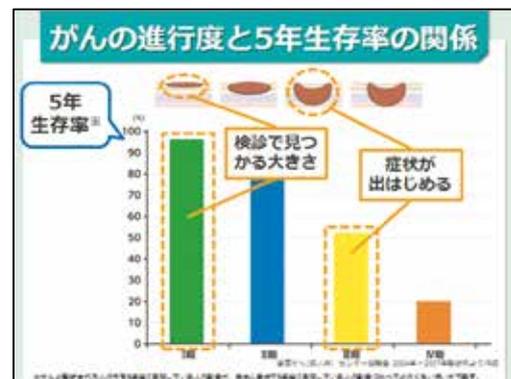
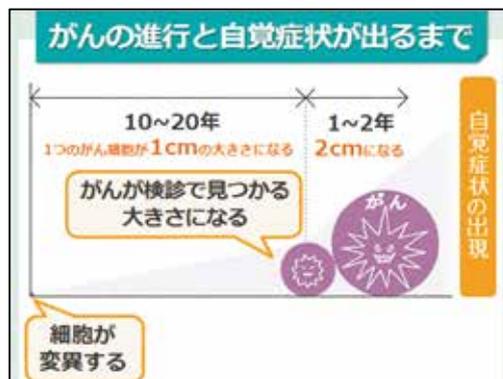
保健体育 参考使用教材

【資料】学校におけるがん教育の考え方・進め方（大修館書店）より抜粋

- Aさんは30歳。朝は6時に起床し、ウォーキングをします。朝食は、バランスよくご飯とだしをきかせたみそ汁、目玉焼き、サラダを食べます。
- 会社でシステムエンジニアをしているAさんは、いつもパソコンと向き合う仕事为主体です。2時間に1回はストレッチをして、体の緊張をとるようにしています。今日の昼食は食堂でカレーライスを食べます。だいたい夜の7時ごろまで仕事をします。
- 今夜は、仲間と話を楽しみながら食事をします。10時ごろ帰宅してゆっくり入浴し、11時ごろ眠りにつきました。
- 職場の健康診断の案内がきていました。今年もしっかりと受ける予定です。



【資料】がん教育プログラム中学校・高等学校版 スライド教材より抜粋



《特別活動》

1 本時のねらい

- 自分や身近な人ががんになった場合を想定した意見交換を通して、保健体育科での学習（がんの疾病概念や予防、早期発見の大切さ等）をもとに自分にできることを考えることができる。

2 指導の流れ

【導入】

- ・前時の学習を振り返り、がんの疾病概念や早期発見等の大切さ等について確認する。

身近な人を亡くした生徒がいる場合、様子を観察するなど配慮する。

【展開】

自分や家族ががんと診断されたらどのような行動をするか考える。

- ・自分ががんと診断されたら知りたいかどうか、理由を含めて考える。（グループでの交流）
- ・家族など身近な人ががんと診断されたらどのように関わっていくか、理由を含めて考える。（グループおよび全体での交流）
- ・がんと診断された人は、周りの人にどのように接してほしいと望んでいるか考える。
- ・予防や早期発見、周囲の人の理解や支えの大切さを再確認する。

【まとめ】

- ・本時を振り返り、自分や身近な人ががんと診断された場合にとろうと思う行動やその理由を記述する。

3 評価

- 自分や身近な人ががんと診断された場合にどう行動するかを、保健体育科での学習をもとにワークシートに記述したり、発表したりしている。

《道徳》

1 本時のねらい

- 外部講師の講話を聞くことを通して、がん患者との関わりや、自他の健康と命の大切さについて考えることができる。
- 健康的な生活を実践していこうとする態度を高めることができる。

2 指導の流れ

【導入】

- ・前時までの学習を振り返り、本時の学習内容を確認する。

【展開】

外部講師の講話を聞く。（がん経験者、がん専門医、がん看護専門看護師 等）

- ・がんの早期発見とがん検診
 - ・がんの治療
 - ・がん治療における緩和ケア
 - ・がん患者の「生活の質」
 - ・がん患者への理解と共生
- ・事前に講師と打ち合わせを行い、授業のねらいを押さえ、教育効果を高めるようにする。
- ・講師が一方向的に話すのみではなく、生徒が主体的に考えたり、活動したりする時間を確保するなどの工夫をする。

前時までの学習や外部講師の講話をもとに自分がとろうと思う行動を考える。

- ・がん患者や患者家族との関わりを考える。（個人・グループ・全体）

【まとめ】

- ・これまでの学習を振り返り、自分の考えを記述する。

3 評価

- 外部講師の講話を聞き、がん患者との関わりや健康と命の大切さについて考え、ワークシートに記述したり、発表したりしている。
- 健康的な生活を実践していこうとする考えをワークシートに記述している。

特別活動・道徳 参考使用教材

【資料】 がん教育プログラム中学校・高等学校版 スライド教材より抜粋



<ワークシート (例) >

【調査の手順】 → 資料としてあること、そして考える → 話し

年 組 番 氏 名

1 もし、あなたが「がん」と診断されたら、知りたいですか？

<自分の考え と その理由>

<「賛成」や「なるほど…」と思った仲間の考え と その理由>

2 もし、あなたの家族が「がん」と診断されたら、どのようにかわかっていこうと思えますか？

<自分の考え と その理由>

<「賛成」や「なるほど…」と思った仲間の考え と その理由>

3 授業を振り返ってわかったこと、思ったことなど

3 高等学校

「現代社会と健康 ～がんとその予防～」

<指導の流れ> 3時間

保健体育 (2時間)	(1)現代社会と健康 ア 現代社会と健康について理解を深めること (ウ)生活習慣病などの予防と回復	・がんの種類や特徴について、正しい知識を身に付ける。 ・がんを減らす方策について、様々な視点から考える。
特別活動 (1時間)	(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 オ 心身共に健康で安全な生活態度や習慣の育成	・がん検診や治療法の選択について考え、がん患者の思いや、がんと共に生きる生活について理解を深める。 ・自分や身近な人ががんになった場合を想定した意見交換を通して、がんの疾病概念や予防等をもとに、適切な対応を考える。

《保健体育 1h 1/2》

1 本時のねらい

○がんには様々な種類があり、それぞれのがんの特徴を知ることが、がんの予防を考える上で重要であることを理解できるようにする。

2 指導の流れ

【導入】

・がんは、日本人の死因の第1位であること、がんには様々な種類があることを確認する。

【展開】

がんの疾病概念を知る。

(参考:文部科学省「がん教育推進のための教材」、「がん教育プログラムスライド教材」モジュール1・2・3)

- ・提示された資料をもとに、がんの特徴についてまとめる。
- ・個人のワークシートに記入し、グループで話し合い、発表する。
- ・がんの仕組み、経過、種類などを知る。

- ・小児がんなど、生活習慣とは関連のないものもあるため、誤解がないようにする。
- ・一部のがんでは、ウイルス感染が背景にある場合があるが、がんという病気自体が人から人に感染することはないため、感染を扱う際は留意する。

がんの危険性を減らす方策について、様々な視点から考える。

(参考:文部科学省「がん教育推進のための教材」、「がん教育プログラムスライド教材」モジュール1・3・5)

- ・がんの危険性を減らす方策について、個人のワークシートに記入する。
- ・グループで話し合い、ワークシートにまとめる。
- ・正しい情報を選択していく力を身に付けることが必要であると知る。

【まとめ】

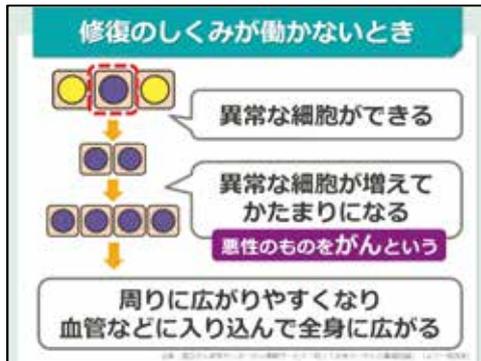
・本時を振り返り、今日の学習を通してわかったことを記述する。

3 評価

- がんの特徴について、資料からデータを読み取って分析し、筋道を立てて説明している。
- がんの予防や健康と命の大切さについて理解したことを発言したり、書き出したりしている。

保健体育 参考使用教材

【資料】 がん教育プログラム中学校・高等学校版 スライド教材より抜粋



がんの種類	特徴など
胃がん	・ピロリ菌の感染が発病にかかわっていると考えられている。
大腸がん	・運動不足や肥満、大量の飲酒などが発病に関連している。
肺がん	・我が国では死亡者数が最も多く、特に男性に多い。 ・最大の原因は喫煙であり、たばこを吸う人が肺がんにかかる確率は、男性では吸わない人の4～5倍にもなる。
肝臓がん	・主な原因はB型及びC型肝炎ウイルスの感染である。 ・大量の飲酒の習慣も、肝臓がんになるおそれがある。

原因のわからないがんもある

がんには原因のわかっているものとわからないものがある

小児がんも生活習慣や細菌・ウイルスとは関係なく発症するものが多い

小児がん…白血病、脳腫瘍など

Q がんの危険性を減らすためのアドバイスを考えよう

生活習慣ががんの予防に大事と知っていますよ！

でも、体がじょうぶだから気にしてません。忙しくて、それどころじゃありませんよ…

ヒント

- 細胞の変異は毎日起こっている
- がん細胞は10～20年かけて成長する

【資料】 「がん教育推進のための教材」平成29年6月一部改訂（文部科学省）より抜粋

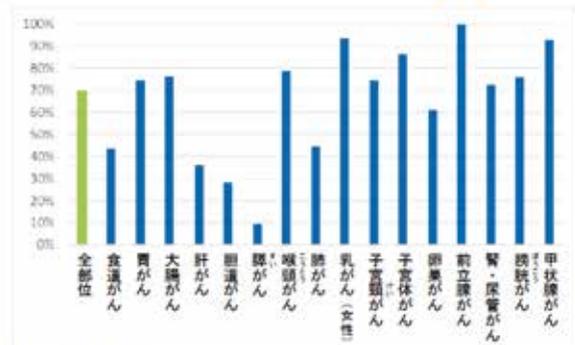


図2. がんの5年生存率^(※2)
(出典: 全国がん(成人病)センター協議会の生存率共同調査(2017年6月集計)による[診断年: 2006-2008])

<ワークシート(例)>

がんの危険性を軽減するためのアドバイスを考えよう

生活習慣ががんの予防に大事と知っていますよ！

でも、体がじょうぶだから気にしてません。忙しくて、それどころじゃありませんよ…

Aさん(40歳)

<アドバイス>

《保健体育 1h 2 / 2》

1 本時のねらい

- がん検診やがんにかかっても、様々な治療法があることや、治療法の選択について考え、がんと共に生きる社会づくりに必要なことを理解できるようにする。

2 指導の流れ

【導入】

自分自身ががんと診断されたとしたら、知らせて欲しいか考える。

- ・前時の振り返り：早期発見で約9割のがんは治るため、がん検診が推奨されていることを確認する。

【展開】

がん検診の受診率を高めるためには、どうしたらよいか考える。

(参考:文部科学省「がん教育推進のための教材」,「がん教育プログラムスライド教材 モジュール1・3・5」)

- ・がん検診の受診率を高める方策について、個人のワークシートに記入する。
- ・グループで話し合い、ワークシートにまとめる。
- ・正しい情報を選択していく力を身に付けることが必要であると知る。

- ・国のがん検診の取組とがん検診を受けない理由に着目させ、がん検診の受診率を向上させる方策を考察させる。

がんの治療方針を決定するとしたら何を重視するか考える。

(参考:文部科学省「がん教育推進のための教材」,「がん教育プログラムスライド教材 モジュール1・3・5」)

- ・がんの治療法や緩和ケアについて知る。
- ・がんの治療方針を決定する際に、重視したいことについて、グループで話し合っ考える。

- ・インフォームド・コンセントやセカンド・オピニオンの意義について考えさせる。
- ・がんの種類や病状だけでなく、今後の生活や生き方を踏まえて、自分らしく生きられるようにするために、治療法などについて調べ、適切な思考・判断を行い、納得した治療を受けるように、がん治療を選択することが大切であることを説明する。

【まとめ】

- ・本時を振り返り、今日の学習を通してわかったことを記述する。

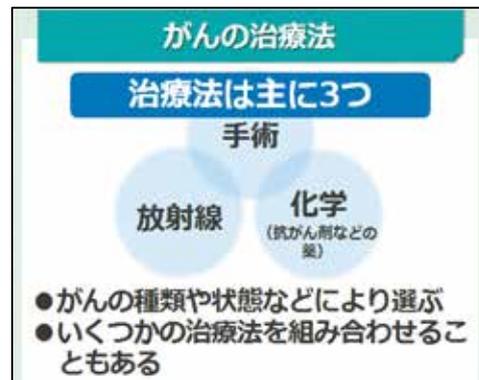
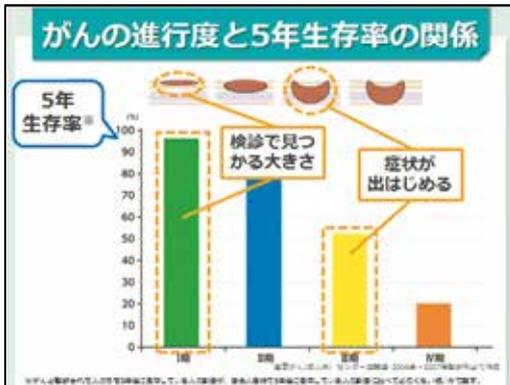
3 評価

- がん検診について、課題解決に向けての話し合いや意見交換など、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
- がんと共に生きる社会、健康と命の大切さについて、理解したことを発言したり、書き出したりしている。

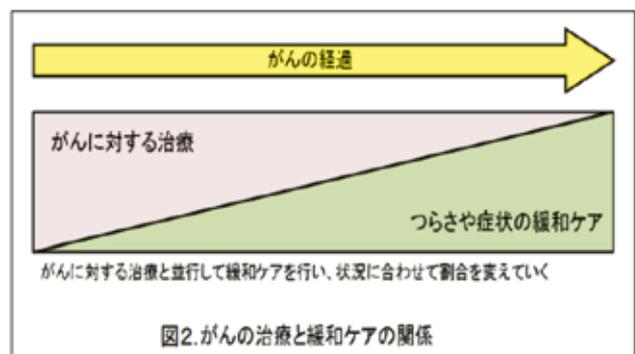


保健体育 参考使用教材

【資料】 がん教育プログラム中学校・高等学校版 スライド教材より抜粋



【資料】 「がん教育推進のための教材」 平成29年6月一部改訂 (文部科学省) より抜粋



〈特別活動〉

1 題材名「がん患者への理解と共生」

2 本時のねらい

- がんの治療をしながら、日常生活を送る人が増えている。がん患者が働きやすい社会になるために、がん患者への理解を深め、支え合って生きることが大切であることを理解させる。
- 自分の生き方と関連付けて考え、がん患者が働きやすい社会の実現に向けた自分の行動を自己選択・自己決定できるようにする。

2 指導の流れ

【導入】

- ・働きながらかんの治療をする際に、どのような苦労があるか予想する。

- ・身近な人を亡くした生徒がいる場合、様子を観察するなど配慮する。
- ・日本人の2人に1人ががんになる状況等、基礎的な学習内容について振り返る。
- ・がんにかかると、治療のために仕事を休まなければならない、あるいは辞めざるを得ない場合があることに気付かせる。

【展開】

がん患者が働きながら治療する際の課題について考える。

- ・がんの治療方法を振り返り、がん治療は入院より、通院が主体になりつつあるため、がんの治療をしながら、以前と同じような生活を送る人が増えていることを知る。
- ・働きながら治療する際の課題について考える。(個人・グループ・全体)

- ・周囲の人のがんに対する理解不足が誤解を生むことに気付かせる。

がん患者が働きやすい社会を築くためにできることを考える。

(参考:文部科学省「がん教育推進のための教材」p14(3)がん患者も暮らしやすい社会を目指して、p16(ある職場でのケース))

- ・がん患者が働きやすい社会を築くためにできることを考える。(グループ)
- ・就職した自分をイメージして考える。

【まとめ】

自分に合った方法を、自己決定する。

- ・がん患者が働きやすい社会を築くために、自分に合った方法を決め、発表する。

3 評価

- がんの治療をしながら、日常生活を送る人が増えていること、また、そのような人たちが、働きやすい社会にするためには、がん患者への理解を深め、共に支え合うことが大切であることについて理解している。
- がん患者が働きやすい社会を築くための自分の行動を自己選択・自己決定している。

外部講師(がん患者・がん経験者)の活用

- ・事前に講師と打ち合わせを行い、授業のねらいを押さえ、教育効果を高めるようにする。
 - *内容としては、実際にがんにかかったときの生活の変化や苦労、周囲の人との関わり、仕事を続けていく上で課題となったことなどが考えられる。
- ・講師が一方的に話すのみではなく、生徒が主体的に考えたり、活動したりする時間を確保するなどの工夫をする。

特別活動 参考使用教材

【資料】「がん教育推進のための教材」平成29年6月一部改訂（文部科学省）より抜粋

(3)がん患者も暮らしやすい社会を目指して

がんにかかっても、多くの人が治療をしながら、仕事を続けたり、以前と同じような生活を送ったりすることができるようになりました。しかしながら、個人の努力や身近な人の支援だけでは解決できない問題も少なからずあります。

職場においては、がんやその治療に関して、更に理解を広める必要があります。仕事とがん治療を両立させるために勤務先から支援を受けたがん患者の割合は68.3%^(※1)となっています。また、がんの治療や検査のために2週間に一度程度病院に通う必要がある場合、働き続けられる環境だと思ふ20歳以上の人の割合は27.9%^(※2)にとどまり、治療と仕事の両立が難しいと考える人が多いことが指摘されています。



我が国では、がん患者やその家族を支える仕組みが徐々に整備されつつありますが、いまだ十分ではありません。がん患者やその家族も含めて誰もが暮らしやすい社会をつくるためにも、私たちががんについて正しく理解することが重要です。

〈ある職場でのケース〉

自分の病気について人に話すときの「話し方」「伝え方」に気を付けるようにしました。私自身がそうでしたが、病気になったことを自分の欠点だと思ってしまうと、病気のことを人に話すときに、相手にも欠点として伝わってしまいます。逆に、病気を経験したけれども働こうと思っている自分に自信と誇りをもって堂々と話せば、相手も長所として受け止めてくれます。

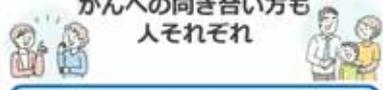
今では、「抗がん剤で髪がいったん全部抜けたけどこれだけ生えてきました」などと、深刻な顔をせず平然と話すことで、相手もそのうち普通の会話として受け止めてくれるようになりました。また、できないこと、制限が必要なこともはっきり言い、逆にできること、制限しなくていいこともはっきりアピールしています。例えば「薬があるから忘年会でお酒は飲めない」「骨が弱いから会社のバレーボール大会は見学のみ」ということをはっきり言う一方で、「旅行に行った」「週3日ウオーキングをしている」など、病気だからといって何もかもダメでおとなしく生活しているわけではなく、普通の人と同じように遊びも楽しんでいることもアピールしています。

病歴は変えられないけれど、伝え方の技術を磨くことで、病歴をプラスの経験に変えて社会に受け入れてもらいやすくなると感じています。

（女性 診断時19歳 卵巣がん 正社員）

『がんと仕事のQ&A（第2版）』（国立がん研究センターがん情報サービス）

【資料】がん教育プログラム中学校・高等学校版 スライド教材より抜粋

<p>家族や友人にこれまで通り接してほしい</p> <p>がんを正しく理解してほしい</p>  <p>がん患者にはさまざまな願いがある</p>	<p>がん患者の「生活の質」</p> <p>一人一人の生き方が異なるようにがんへの向き合い方も人それぞれ</p>  <p>自分らしく生きられるよう生活の質（クオリティ・オブ・ライフ）の維持・向上が大切</p>	<p>がんについて周囲の理解がある</p> <p>がんの治療に協力を得られる</p>  <p>がんへの正しい理解が誰もが暮らしやすい社会につながる</p>
--	---	--

Ⅳ 外部講師を活用したがん教育の進め方

がん教育の実施にあたり、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深めるためには、がんの専門家（外部講師）との連携が効果的です。授業のねらいに応じて、外部講師を活用し、教員による授業と外部講師による指導を組み合わせ、児童生徒の学びを深めることが期待されます。

【基本方針】

地域や学校の実情に応じて、学校医、がん専門医、がん患者、がん経験者など、それぞれの専門性が生かせるよう指導の工夫を行い、連携を密に図りながら実施する。

○外部講師を活用した授業の実施ポイント

- 学校が主体となって企画・運営を行う。
- 授業を担当する教員だけではなく、全ての教職員の共通理解のもとに進める。
- 保護者への広報、啓発活動を同時に行うと効果的。関係者、関係機関と継続的に連携する。
- 年度当初の職員会議等で、外部講師を活用したがん教育の開催予定を周知するなど、情報を共有する。

○外部講師を活用した授業の実施の手順（例）



学校内	保健主事や授業を担当する保健体育教諭や学級担任などを中心に核となる教員を決め関係教職員と連携しつつ、がん教育を企画する。 <ul style="list-style-type: none"> ・どんなテーマで ・いつ ・だれを講師に 	外部講師を活用したがん教育の実施に向けて、教職員の共通理解を図り、実施内容等について話し合う。また、教科書やがん教育にかかわるビデオ、パンフレットなどの資料を準備する。	当日児童生徒に配布する資料や使用する視聴覚機材を準備する。 必要な場合には事前学習・事前指導等を行う。
外部講師を活用した場合	外部講師を活用したがん教育の企画に合わせて、関係機関に講師の派遣を依頼する。 <ul style="list-style-type: none"> ・講師選定 ・事前打診 ・正式依頼状送付 ・打合せ日程調整 	外部講師を活用したがん教育の講師予定者と当日の指導内容や指導方法について打合せを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・詳細な日程 ・講師と学校の役割分担 ・準備品等 ・指導上の留意事項の確認 	資料や視聴覚機材についての最終確認を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・講師と教員との役割分担についても確認する。



<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学校内</p>	<p>本時におけるがん教育の目的・ねらいの説明、講師の紹介等を行う。 外部講師を活用したがん教育を実施する。</p>	<p>学校の実情に応じて、関連した教科と結び付けた指導を行う。 外部講師を活用したがん教育を受講した児童生徒が、内容に対する疑問や質問を聞いたり、感想をまとめたりするとよい。</p>	<p>成果や課題について担当者で話し合い、次年度の外部講師を活用したがん教育に生かす。 また、この結果は全ての教職員で共有する。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">外部講師を活用した場合</p>	<p>講師との最終確認を行い、がん教育を実施する。</p>	<p>外部講師に授業実施の感想などを尋ねるとともに児童生徒の感想などをまとめ、指導上の課題や児童生徒の実施後の指導などについて話し合う。</p>	<p>講師及び講師の所属先に礼状を出す。</p>

○実施上の留意点

【指導形態】

学校全体で行う 学年単位で行う 学級単位で行う

※指導形態によって、指導の内容や方法が変わる。

【外部講師の選定】

がんに関する科学的根拠に基づいた理解をねらいとした場合
学校医、がん専門医（がん診療連携拠点病院の活用を考慮）など、医療従事者による指導が効果的と考えられる。

健康と命の大切さをねらいとした場合
医療関係者だけでなく、がん患者やがん経験者による指導も効果的と考えられる。

【授業を行う上での留意点】

授業に当たっては、対象となる児童生徒の発達段階を十分考慮した内容や指導を心掛けるなど、学習上の留意点について、外部講師と事前に共有する。

授業計画の作成に当たっては、授業を企画する教員が主体となるよう留意する。

がん患者やがん経験者の体験談は貴重であるが、家族や身近な人に経験者がいる場合などには、強い印象を与える可能性があることに留意する。

教員と外部講師は、授業の事前・事後に打合せを行い、授業のねらいを確認するとともに、教育効果を高めるようにする。

教員が実施する授業と、外部講師の協力を得て実施する授業や学校行事等に関連させて指導することで、より教育効果を高めることができる。

【外部講師の活用例】

※教育課程上の位置付けとして、特別活動や道徳の事例を示しているが、体育科・保健体育科の授業と関連付けて、指導の充実を図ることが前提となります。

校種	授業のねらい	教育課程上の位置付け	外部講師(例)
小学校	体育科保健領域の学習内容を踏まえ、がんという病気やその予防について、専門家から医学的かつ実践的な内容について理解を深める。	特別活動	学校医 がん専門医
	がん患者の気持ちや生活の様子について理解を深め、思いやりをもって関わるができるようにする。	道徳	がん患者 がん経験者
中学校	保健体育科保健分野の学習内容を踏まえ、医療関係者からがんの検診や治療法、緩和ケアなどの実際や最新情報について理解を深める。	特別活動	学校医 がん専門医
	自他の健康や命を大切にしようとする意識を高め、病気と共に生きる人に思いやりをもって接することができるようにする。	道徳	がん患者 がん経験者
高等学校	保健体育科科目保健の学習内容を踏まえ、がんに関するより医学的な最新情報や、社会におけるがん患者の実態等について理解を深める。	特別活動	学校医 がん専門医
	がんを自分の問題と捉え、考える。自分や家族が、がんになった時に、自己選択・自己決定できるように、考え方を深める。	特別活動	がん患者 がん経験者

依頼した外部講師(例)

【文部科学省委託事業 モデル校による実践から】

- *がん専門医・医師
- *がん性疼痛認定看護師
- *がん患者・がん経験者



依頼を受けた外部講師の方へ

【内容と指導のポイント】

講師が伝えたい内容で一方的に構成したり、児童生徒が理解できない難解な言葉（専門用語）を用いたりせず、対象となる児童生徒の興味・関心や理解力など、発育・発達段階を十分考慮し、わかりやすい言葉づかいや内容を心掛けるようにすることが大切です。

【具体的な内容】

【外部講師が指導する際の配慮事項（例）】

- 写真や図などを用いたり、わかりやすい例を示したりする。
- 体験談等を話す際は、授業前に教員等と打ち合わせを行い、内容を整理し、児童生徒の発達段階に応じた内容に合わせ、内容を精査するようにする。
- 一方的に話し続けるのではなく、外部講師から質問したり、児童生徒に考えさせたりする。
- 「がんの告知を受けたときの気持ち」や「治療中の気持ちやエピソード」など、児童生徒に考えさせたり、ペアトークなどで話し合ったりするようにする。
- 怖さを強調するのではなく、「自他の健康と命の大切さを主体的に考えることができるようにすることが充実した人生につながる」という積極的なメッセージが含まれることなどを念頭に置くようにする。
- がんの治療などには、医療従事者や家族などの協力が大切であることに気付かせるような内容にする。
- 講演や授業の後に、児童生徒が希望をもち、前向きな気持ちになるような内容に心掛けるようにする。

V 参考資料・教材

文部科学省

※「文部科学省トップ」→「教育」→「学校保健、学校安全、食育」
→「学校保健の推進」→「がん教育」

http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1370005.htm

○文部科学省の報告書・冊子

- 学校におけるがん教育の在り方について（報告）
- 外部講師を用いたがん教育ガイドライン
- 「生きる力」を育む高等学校保健教育の手引き

○文部科学省の教材

- 健康な生活を送るために〔高校生用〕
- がん教育推進のための教材（平成29年6月一部改訂）
- がん教育推進のための教材 指導参考資料

※具体的な内容

<小学校版>

- 補助教材：教師用指導参考資料
- 映像教材 がん博士の「がんについての基礎知識」
- 映像教材「がんと生きる」：がん経験者男性・がん経験者女性
- ワークシート

<中学校・高等学校版>

- 補助教材：教師用指導参考資料
- スライド教材モジュール1：がんという病気（15スライド）
- スライド教材モジュール2：日本のがんの現状（12スライド）
- スライド教材モジュール3：がんの発生と進行（16スライド）
- スライド教材モジュール4：がんの予防（13スライド）
- スライド教材モジュール5：検診の意味（12スライド）
- スライド教材モジュール6：がんの治療で大切なこと（11スライド）
- スライド教材モジュール7：がん治療の支援（14スライド）
- スライド教材モジュール8：がん患者のおもい（6スライド）
- スライド教材モジュール9：がん患者とともに生きる社会（13スライド）

○参考になる資料・がんに関する情報

公益財団法人 日本対がん協会

* ホームページ：<https://www.jcancer.jp/>

* がん教育推進 教育用教材（DVD、映像教材、テキスト教材、参考資料）

<https://www.jcancer.jp/cancer-education/allmaterial.html>

国立がん研究センターがん情報サービス

<https://ganjoho.jp/public/index.html>

がん対策情報センター

* 学童向けのがん教育のための資料開発

<https://www.ncc.go.jp/jp/cis/divisions/sup/project/080/index.html>

◆学童向け◆

・「生活習慣病のひとつ がんのことをもっと知ろう」

「がんのことをもっと知ろう」編集委員会／編

厚生労働省がん研究助成金「がん情報ネットワークを利用した総合的がん対策支援とその評価の具体的方法に関する研究」（研究分担者 片野田耕太）

◆指導者向け◆

・「がんのことをもっと知ろう 指導書（小学校高学年向け指導案付き）」

「がんのことをもっと知ろう－指導書－」編集委員会／編

厚生労働省科学研究費補助金がん臨床研究事業「学童を対象としたがん教育指導法の開発およびその評価」（研究代表者 助友裕子）

新潟県のがん対策

* 「新潟県ホームページ」→「健康・医療・衛生」→「新潟県のがん対策」

<http://www.pref.niigata.lg.jp/iyaku/1356769933393.html>

厚生労働省 がん対策情報

* 「厚生労働省ホームページ」→「政策について」→「分野別の政策一覧」→「健康・医療」→「健康」→「がん対策情報」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/gan/

○新潟県内のがん対策関係機関

がん診療連携拠点病院（平成30年4月1日現在）

※関係機関へのお問い合わせについては、保健体育課、各教育事務所、県立教育センターへお願いします。

都道府県がん診療連携拠点病院	県立がんセンター新潟病院
地域がん診療連携拠点病院	県立新発田病院 新潟大学医歯学総合病院 新潟市民病院 長岡赤十字病院 長岡中央総合病院 県立中央病院 新潟労災病院
地域がん診療病院	佐渡総合病院
がん診療連携拠点病院に準じる病院	立川総合病院 柏崎総合医療センター 上越総合病院 西新潟中央病院 済生会新潟第二病院

公益財団法人新潟県健康づくり財団

新潟県福祉保健部・市町村福祉保健部等

<引用 参考文献>

- ・小学校学習指導要領 (平成29年告示) 文部科学省
- ・中学校学習指導要領 (平成29年告示) 文部科学省
- ・高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 文部科学省
- ・小学校学習指導要領 解説 体育編 (平成29年告示) 文部科学省
- ・中学校学習指導要領 解説 保健体育編 (平成29年告示) 文部科学省
- ・高等学校学習指導要領 解説 保健体育編・体育編 (平成30年7月) 文部科学省

- ・学校におけるがん教育の在り方について (報告)
(平成27年3月) 「がん教育」の在り方に関する検討会
- ・外部講師を用いたがん教育ガイドライン (平成28年4月) 文部科学省
- ・「生きる力」を育む高等学校保健教育の手引き (平成27年3月) 文部科学省
- ・小学校版 がん教育プログラム補助教材 (平成29年3月)
株式会社キャリアリンク (文部科学省委託事業)
- ・中学校・高等学校版 がん教育プログラム補助教材 (平成29年3月)
株式会社キャリアリンク (文部科学省委託事業)
- ・がん教育推進のための教材 指導参考資料 (平成29年6月) 文部科学省
- ・新潟県の「がん教育」の推進についてリーフレット (平成29年2月) 新潟県教育委員会
- ・学校におけるがん教育の考え方・進め方 (平成30年3月)
植田誠治編著 物部博文・杉崎弘周著 大修館書店
- ・「がんについて学ぼう 活用の手引き (教師用)」 (平成29年6月) 東京都教育委員会

【がん教育の手引き編集委員会】（平成30年度）

杉崎 弘周	（新潟医療福祉大学健康科学部 准教授）
中林 左知男	（出雲崎町立出雲崎中学校 校長）
片桐 麻子	（長岡市立大島小学校 養護教諭）
加藤 博美	（長岡市立岡南中学校 養護教諭）
高瀬 育子	（上越教育事務所学校支援第2課 指導主事）
鈴木 美和子	（中越教育事務所学校支援第2課 指導主事）
岡村 伸子	（下越教育事務所学校支援第2課 指導主事）
浅沼 文子	（新潟県立教育センター教育支援課 指導主事）
前田 友晴	（新潟県教育庁保健体育課 副参事 指導主事）
佐久間 由美子	（新潟県教育庁保健体育課 指導主事）

文部科学省委託「がん教育総合支援事業」 「学校におけるがん教育の手引き」

発行者 新潟県教育庁保健体育課

〒950-8570

新潟市中央区新光町4番地1

電話 025-280-5622

印刷 株式会社ハイングラフィック

